



れんけいだより

vol.44
2020年1月号



新任医師紹介

新しく採用になった医師を紹介します。



第二産婦人科

濑川 昇平 R1.11.1~

11月より産婦人科で勤務させて頂いております。松江市出身です。平成21年に岡山大学を卒業後に岡山、香川などで働いておりました。これからは松江の産婦人科医療に少しでも貢献できるよう精一杯頑張ります。



第一麻酔科

稲場 聡 R1.11.1~

後期研修医3年目の稲場です。手術麻酔を中心に行っていますが、松江日赤で集中治療、ペイン、緩和と診療の幅を広げていきたいと思っています。未熟者ですが御指導の程、何卒よろしくお願い致します。

新年のご挨拶



院長
大居 慎治

新年あけましておめでとうございます。

平成31年は暖冬でしたが、インフルエンザの流行には当院も大変な影響を受けました。今年も暖冬の予想ですがインフルエンザを封じ込めるべく、感染対策チームがいろいろと策を練っております。まずは職員に感染予防策を徹底しました。外来の患者さんやご訪問のかたにもマスクの着用、手指消毒、不要不急のご訪問を避けていただくなどのお願いをしております。ご迷惑をおかけしますが患者さんの生命に関わることでもあり、御協力をお願いいたします。

昨年12月に今年度2回目の当院の地域医療支援病院運営委員会が開催され、席上で外部委員の方々に貴重なご意見を頂戴いたしました。連携パス、特にがんに関わるパスを増やすこと、麻薬使用を含めた地域での緩和ケアの充実を図ってほしいなどの意見が寄せられました。早速院内の担当に報告し対策を検討しています。

院内では医療倫理検討部会が2年前に発足し、今年度から実際に活動を開始しています。臨床の場での倫理的な問題に対応するチームで、既に数件の相談が寄せられています。臨床のジレンマに直面した際に担当者1人の判断軸だけではなかなか解決できないこともあります。患者さんご本人の視点、ご家族の視点、主治医の視点、看護の視点、法的な視点、社会的視点などいろいろな視点から多職種で検討してみると妥当な解決策が出てくるものです。今後医療安全、患者支援・サービス、感染対策などの既存の部門と同様に重要な部門になっていくと思います。

一方で働き方改革が大きな話題となっています。特に医師の時間外労働があまりにも多く、2024年4月からは厳格な労働時間制限がかかります。4年あまりの猶予期間中に、医療の質を落とすことなくやり遂げなければなりません。医師にも説明の時間をとり、従来の働き方を変えて効率よく働くよう意識改革を求めています。病院を利用される方にも影響が出るかもしれませんが、国全体の方針でもあり、ご理解をいただきたいと思っています。

今までどおり急性期病院として安心して良質な医療の提供にむけて職員一同、ワンチームで頑張っています。今年もどうかよろしくお願い申し上げます。



行事案内

集談会 AWARD 大会

2月18日(火) 19:00~ 松江赤十字病院 講堂

是非、ご参加ください。

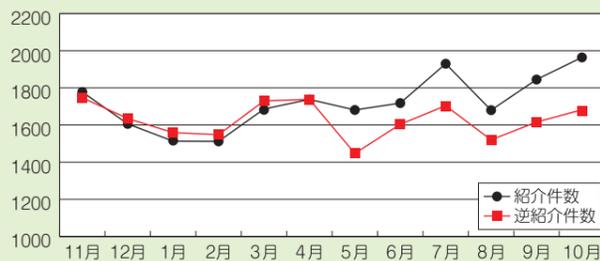


退職者

令和元年12月31日付

心血管外科副部長 片山 秀幸
第一麻酔科医師 堀江 宜佳

紹介・逆紹介件数



ご紹介ありがとうございました。

松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地

TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

第13回 地域医療従事者スキルアップセミナー

11月19日(土) 松江赤十字病院

1部 ポスター展示発表

地域で支えよう！～認知症サポーターの活動促進を目指して～

安来第一病院 稲田 有子

今年度から安来第一病院認知症疾患医療センターでは認知症サポーター活動促進事業に取り組んでいます。地域で暮らす認知症の方やご家族の支援ニーズと認知症サポーターを繋げる仕組みづくりです。その第一歩として、“優しく見守る応援者”という今までの認知症サポーターの立場から、“自分で何が出来るか考え行動できるサポーター”へのステップアップを目指して、「認知症サポーターステップアップ研修」を開催しました。講義と接し方のロールプレイに加え、地域での実践に活かしていただけるよう施設で認知症の方との交流体験を行いました。研修後には、「話し相手や買い物の付き添い、お手伝い等出来そう」「話をしていると認知症の方ではなく普通のおばあ様方だと感じた」等という感想もあり、大変

有意義なものとなりました。今後は、地域での実践活動を後押ししていきます。認知症の方やご家族にとっても、こういったサポーターが身近に増えることは心強く、安心して暮らせる地域になるものと思います。



地域医療従事者スキルアップセミナーのポスター展示発表に参加して

特別養護老人ホーム明翔苑 向 晴生

「排尿予測センサーを導入して」のポスター展示発表をさせていただきました。

排尿予測センサーは、膀胱の膨らみを超音波で計測し専用アプリが排尿のタイミングを知らせてくれる機能があります。導入後の取り組みは、褥瘡の予防と治療、トイレでの排尿誘導、おむつ費用の削減でした。褥瘡が良くなったり悪くなったりを繰り返されている方に使用しました。排尿がみられた時の交換、処置、離床の際の座位姿勢の見直し等も行い約2か月で治療された事例があります。排尿予測センサーを導入した事で、排泄への意識が施設全体で高まり、トイレでの排尿誘導や尿測を行い尿取りパッドの選定を見直しおむつ費用の削減にも繋がりました。まだまだ上手く利用出来ていない現状はありま

すが、引き続き取り組んでいきたいと思っています。他事業所の「認知症サポーターの活動促進を目指して」「地域包括システムの構築」「松江市版入退院連携ガイドライン」の発表も聞かせていただき貴重な時間を過ごさせていただきました。



2部 講演

みんなの皮膚を守ろう！



皮膚・排泄ケア認定看護師
渡部 幸紀

秋晴れの11月9日に「みんなの皮膚を守ろう」をテーマに2部構成でセミナーを行いました。看護師だけでなく医師、介護支援専門員など他職種の方にもご参加いただき、スキンケアについて興味関心の高さを感じました。

前半は『実は密接な関係があるのです～スキンケアとスキンテア～』という講演を行いました。“スキンテア”とは、主として高齢者の四肢に摩擦・ずれによって発生する外傷性創傷です。その言葉を初めて聞いたとの声もありましたが、高齢者の肌は弱く様々な場面で配慮が必要だと実感した、職場での参考になった、わかりやすかったなどの声をいただき嬉しく思いました。

後半は『スキンケア帰れま10(テン)～全員正解しないと帰れませんよ！～』でO×クイズ形式の会場全員参加型の講演を行いました。ゲーム感覚で学べ楽しかった、職場でもフィードバックしたいと思う、日々悩んでいることがあったがとても勉強になった、などスキンケアの正しい知識を得ることができたのではないかと考えています。

会場には、スキンケアグッズ(保湿剤や皮膚保護グッズ)を展示して保湿剤の成分の確認や使用感などを実感していただけるようにしました。

スキンケアグッズにはたくさんの種類があります。その特徴を知って正しい方法のスキンケアを実践すること、こつこつと積み重ねていくことが自分自身だけではなく、患者さん利用者さん、みんなの皮膚を守るケアにつながっていくのではないのでしょうか。

